

平成 29 年度 事 業 計 画 書  
平成 29 年度 収 支 予 算 書

自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会



# 目 次

## I 平成 29 年度事業計画書

1	はじめに	1
2	調査研究事業	2
	(1) 共同研究事業	
	(2) 個別研究事業	
	(3) 学術研究会事業	
	① 早期胃癌研究会	
	② 大腸研究会	
3	研修指導事業	11
	(1) 日中早期胃大腸癌学術検討会	
	(2) 国内医師に対する研修	
	(3) 放射線技師に対する研修	
	(4) 平成消化器懇話会の開催	
4	普及啓発事業	12
5	検診・診療事業	13
6	法人運営	14

## II 平成 29 年度収支予算書 15



# I 平成 29 年度事業計画書

---

## 1 はじめに

早期胃癌検診協会は、昭和 42 年 9 月に発足し、主に早期胃がんの学術的及び診断技術的研究を行い、あわせてその普及に努めてきた。

平成 29 年度で設立 50 周年を迎えるが、今後とも、当協会の歴史、伝統及び業績を守りつつ、時代をリードする消化器がんを中心とした検診・診療施設として活動し、公益財団法人としての公共的責任と社会的役割を果たしていかなければならない。

当協会の使命は、生活習慣病を中心とした検診及び治療、早期胃がんをはじめとする消化器がんの学術的及び診断技術的な研究、並びに医学界及び一般社会に対する研修及び普及啓発活動を行い、もって都民のがん対策及び健康増進に寄与することである。そのため、(1)早期胃がんを中心とした消化器がんに関する診断方法及び疾病動態の研究、(2)学会及び研究会等への財政的・技術的支援、(3)医師等を対象とする消化器がん診断技術の専門的研修、(4)消化器疾患に関する健康相談及び啓発、(5)生活習慣病の予防及び早期発見に必要な各種検診並びに必要な治療を事業の柱とする。

平成 29 年度は、基盤事業である検診・診療事業の規模の維持に努めるとともに、調査研究事業、研修指導事業及び普及啓発事業を積極的に展開する。

これらのことにより、安定的な財団運営を可能にするとともに、当協会の公共的責任と社会的役割を果たせるように努めていく。

## 2 調査研究事業

調査研究事業には、研究本部の研究室メンバーが共同して行う共同研究事業と職員が個別に研究テーマを設定して行う個別研究事業、そして症例検討会等を開催し支援する学術検討会事業がある。

### (1) 共同研究事業

共同研究事業は、研究本部に所属する研究室がその中長期目標を達成するために行う研究事業である。平成 29 年度の研究テーマは、平成 28 年からの継続のものが 3 テーマ、今年度から新たに研究するものが 2 テーマの合計 5 テーマであり、それぞれの研究内容は、次のとおりである。

なお、研究テーマについては、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において有用性、独創性、実現性等を評価し、研究の継続・開始が承認されたものである。

<研究テーマ>

#### ① 効果的な特定保健指導に関する研究（内臓脂肪面積データの解析）（継続） （研究本部保健指導研究室）

健康保険法改正に伴い平成 20 年から開始された特定健診におけるメタボリック症候群該当者に対する特定保健指導の有効性を高める方策について研究する。

平成 25 年度は 360 名を内臓脂肪面積測定機で内臓脂肪面積を測定した。内臓脂肪の中央値は 84.65 cm<sup>2</sup>で、100 cm<sup>2</sup>以上の人は 28%で、内臓脂肪面積と BMI は中等度の相関、腹囲とは強い相関があった。

平成 26 年度は、132 例で検討した結果、100 cm<sup>2</sup>以上では 76%がメタボ判定であった。

平成 27 年度と同様に、平成 28 年度は内臓脂肪面積を測定した特定保健指導対象者 9 名の保健指導前後の内臓脂肪面積と体重、腹囲、血圧の変化との関係をピアソンの積率相関係数でみると、腹囲とは  $r=0.51$ 、体重とは  $r=0.67$ 、最高血圧と  $r=0.65$ 、最低血圧とは  $r=0.78$  といずれも高い相関がみられ、また、内臓脂肪面積の減少と血圧の減少には関連があった。

平成 29 年度も同様の検討を続け、特定保健指導の効果を検討する。

#### ② 強力な酸分泌抑制薬を用いた *H.pylori* 除菌治療の有用性の検討（継続） （研究本部がん対策研究室）

強力な酸分泌抑制効果があるプロトンポンプ阻害薬であるラベプラゾール（パリエット®）を用いたヘリコバクター・ピロリ除菌療法の有用性を平成 26、27 年度に検討してきた。平成 27 年 3 月よりさらに強力なアッ

シドポンプ競合型アツシドブロッカー：P-CAB（タケキャブ®）が除菌治療に用いられるようになったので、平成 28 年度はその有用性を検討した。

除菌治療を希望する患者を登録制にして、一次、二次、菌療法を除菌率、副作用の頻度と内容を調査した。

	除菌率	副作用発生率
一次除菌：P-CAB+AMPC1500+CAM400	88.3%(166/188)	6.4%
P-CAB+AMPC1500+CAM800	95.3%(164/172)	11.4%
二次除菌：P-CAB+AMPC1500+MNZ500	98.1% (51/52)	5.8%

一次除菌に関して、クラリスロマイシン(CAM) 800mg/日投与群の方が 400mg/日投与群に比べて有意に高い除菌率を示した (p=0156)。副作用に関しては、800mg/日投与群のほうが若干多い傾向があったが、臨床上問題となる薬疹は、それぞれ 4 名であった。二次除菌は更に高い除菌率を示した。この研究成果は DDW（米国消化器病学会）2016、UEGW（欧州消化器病学会）2016、APDW（アジア太平洋消化器病学会）2016 で発表した。

「*H. pylori* 感染の診断と治療ガイドライン 2016 年版」では 400mg/日投与が推奨されているが、当協会での検討では異なる結果であった。そこで平成 29 年度は、当院では有意に除菌率が高かった CAM800mg を含むパック製剤を除菌治療に主に使用して、その除菌率を再確認するとともに、除菌率の差の要因を検討するのを到達目標とする。

③ レーザー内視鏡を用いたヘリコバクター・ピロリ陽性慢性胃炎に対する内視鏡自動診断プログラムの開発（継続）

（研究本部画像病理研究室）

ヘリコバクター・ピロリ感染による慢性胃炎は、胃がんをはじめとする様々な胃疾患の原因になることが知られている。そのため平成 25 年、健康保険によるピロリ胃炎の内服治療が認可された。

本研究の最終の目的は、内視鏡検査時におけるピロリ菌感染予測を補助する「内視鏡自動診断プログラム」を作成することである。研究は「千葉大学フロンティア医工学センター」と「富士フイルム株式会社」との共同研究で、役割分担を明確にする。当協会としては、千葉大学での解析に使用する内視鏡画像データとピロリ菌感染情報（*H. pylori* IgG 抗体価）を 100 人分収集する。千葉大学での白色光、Blue LASER Imaging (BLI)、Linked Color Imaging (LCI)における内視鏡画像データの解析を担当するが、平成 28 年度は、最初の段階として、解析のための画像診断のプログラムを作成するために必要な情報を集め分析することに取りくんだ。ピロリ陽性 50 例と陰性 59 名の 2 群に分けて、deep learning の framework を用いて 2 群の内視鏡画像分類プログラムを試作した。試作した診断プログラムの感度は 41.3%、特異度 95.0%、ROC 曲線による AUC は 0.864 で、中等度の診断精度と判定された。

この研究成果は APDW（アジア太平洋消化器病学会）2016 で発表した。平成 29 年度は、28 年度に試作した診断プログラムの感度を向上させる目的で研究を進める。特にレーザー内視鏡の特徴である画像強調法 BLI、LCI のピロリ陽性慢性胃炎の診断の有用性について検討を行う。

④ MMG 画像の石灰化と腫瘍の検出装置について（新規）

（研究本部画像病理研究室）

乳がん検診において広く実施されているマンモグラフィー(MMG)の画像診断で重要な石灰化影や腫瘍影の検出のために、コンピューターを用いた診断の有用性を検討するのが本研究の目的である。

平成 29 年度は、AI ソフト「ディープラーニング」を使用して、石灰化と腫瘍が描出されている MMG 画像を AI ソフトに読み込み学習させて、石灰化と腫瘍の検出の自動診断のための支援装置の作成を試みる。

⑤ CT コロノグラフィー検査条件の最適化（新規）

（研究本部画像病理研究室）

大腸がんの罹患率上昇に伴い、今後、大腸がん検診の増加と、それに伴う二次検査の増加が予想される。二次検査として行う画像検査として当協会では大腸内視鏡検査を行ってきたが、その実施数には限界があり、また内視鏡が困難な高齢者の増加が見込まれる、そこで当協会では X 線 CT を用いた CT コロノグラフィー(CTC)の導入を検討している。

平成 29 年度は、その第一段階として、受診者の受容率が高く腸管と残渣の分離が良好な前処置とガス注入量や注入体位、撮影体位などの撮影条件について検討する。

## (2) 個別研究事業

個別研究事業は、平成 28 年度から継続して研究するものが 1 テーマ、平成 29 年度から新たに研究するものが 2 テーマの合計 3 テーマであり、それぞれの研究内容は、次のとおりである。

なお、研究テーマについては、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において有用性、独創性、実現性等を評価し、研究の継続・開始が承認されたものである。

### <研究テーマ>

#### ① ピロリ除菌治療後のバレット上皮の進展（継続）

研究責任者：榎 信 廣（研究本部）

平成 24～27 年度までの検討で、5 年以上の経過観察でも、内視鏡的正常胃症例からの胃がんの発生はなく、内視鏡的正常胃の約半数にバレット上皮が認められ、比較的若い年代で進行することが推測された。その検討結果から、胃の酸分泌機能が改善すると考えられている除菌治療後の患者のバレット上皮の推移についても興味を持たれるところである。その視点から、ピロリ除菌治療後のバレット上皮の推移を中心に研究する。

本検討の前に行った研究として、当協会でも 5 年以上経過を観察した男性症例で検討した結果、ピロリ陽性患者より除菌後の患者の方が高頻度にバレット上皮が認められた。

平成 28 年度は当協会でも内視鏡検査を受けた患者のなかから、ピロリ除菌治療を受けた時期が明確で、かつ除菌前後に 3 年以上経過を観察されていた男性 69 症例、女性 20 症例で検討した結果、除菌後だけにバレット上皮が進展したと考えられた症例は男性 19%、女性 5%であった。バレット上皮の進展は男性例で主に認められたが、年齢、酸分泌能の指標になる萎縮境界で層別して検討しても一定の傾向は認められなかった。

平成 29 年度は、症例数を更に蓄積して背景因子を含めた検討を行う。

#### ② 内視鏡経過観察によるピロリ除菌後の胃粘膜内視鏡所見の変化に関する研究（新規）

研究責任者：榎 信 廣（研究本部）

平成 25 年にピロリ胃炎に対する除菌治療が保険適応になり、除菌治療後のピロリ既感染胃における胃炎および胃がんの内視鏡診断が胃検診においても重要となってきた。特にピロリ既感染胃に特徴的にみられる地図状発赤は、平成 28 年度の共同研究（がん対策研究室）で除菌後胃がんの発見のためにも重要な内視鏡所見で、除菌後に胃がん発見が困難になるとの危惧の原因にもなっている所見である。そのような理由で、ピロリ除菌治療で現感染から既感染に変わる時に、胃粘膜の内視鏡所見がどのように変化をしていくのか知ることが臨床的に大切と考えた。

平成 29 年度は、探索的検討として、ピロリ除菌治療の時期が明確で、除菌前後に経時的に詳細に胃粘膜所見の観察がなされた症例を対象に、発赤・粘膜腫脹といった現感染に特徴的な内視鏡所見の消失、腸上皮化生の可視化と考えられている地図状発赤の出現について、除菌前の胃粘膜の状態と対比しながら、後ろ向きに検討する。臨床例での経験からは、除菌前の胃粘膜の腸上皮化生の程度が、除菌後の地図状発赤の出現と関係している印象を受けているが、その確認を本年度の到達目標とする。

③ 大腸ポリープの検出および鑑別のための人工知能技術の開発ならびに適用に関する研究（新規）

研究責任者：中 島 寛 隆（附属茅場町クリニック）

増加傾向にある日本人の大腸がん死亡者を減少させるためには、病変の早期発見と早期治療が必要である。大腸は約 2m の長大な管腔臓器のため詳細に観察すると長い検査時間を要する。長い検査時間は患者のみならず内視鏡医の負担も大きい。大腸内視鏡検査時間を短縮しながらポリープの検出精度を向上させることができれば、内視鏡診療における貢献が大きい。

本研究の目的は、「人工知能を用いて効率良く大腸ポリープを検出ならびに鑑別する技術を開発すること」で、「富士フイルム株式会社画像技術センター」との共同研究である。

平成 29 年度は画像解析プログラムを作成するために必要な情報を集め分析する。富士フイルム製レーザー内視鏡（RESAREO）に割り当てられた患者約 200 名を対象として、白色光、Blue LASER Imaging、Linked Color Imaging を用いた大腸内視鏡検査を当協会クリニックで行い、動画と静止画像の記録をして、富士フイルム画像技術センターで画像データの解析方法を検討する。

### (3) 学術研究会事業

研究会の開催等については、これまで継続して行ってきたものを基本とする。開催、支援している研究会は、次のとおりである。

- ① 早期胃癌研究会＜年 9 回 第 3 水曜に開催（8 月・10 月・2 月休会）＞  
東京都を中心に全国の大学、医療機関から提出される食道がん・胃がん・大腸がん並びに消化管の腫瘍性疾患の X 線・内視鏡画像（平均 5 症例）と病理所見について、厳しい討論が行われる。この研究会での高度かつ専門的な症例検討は、医学雑誌「胃と腸」に掲載され、早期消化管がんの診断法の進歩及び普及に貢献している。

出席者は毎回約 400 名、主たる参加施設数は約 60 施設で、うち都内の施設は約 20% である。当協会としては、理事長が運営委員会等の運営に関わるとともに、常勤理事が運営委員として研究会の企画・運営に携わっている。

さらに、研究会においても当協会所属医師が毎回積極的に討論に参加し、その診断法の進歩に貢献するとともに、年数回は症例を提出するなど、討論においてリーダーシップを発揮している。

#### ア 早期胃癌研究会運営幹事 （平成 29 年 1 月 31 日現在）

##### 【運営委員長】

小 山 恒 男 佐久医療センター内視鏡内科

##### 【運営幹事】

（臨床） 10 名

小 山 恒 男 佐久医療センター内視鏡内科

小 林 広 幸 福岡山王病院消化器内科

斉 藤 裕 輔 市立旭川病院消化器病センター

榊 信 廣 早期胃癌検診協会

清 水 誠 治 大阪鉄道病院消化器内科

田 中 信 治 広島大学内視鏡診療科

長 浜 隆 司 千葉徳洲会病院消化器内科 内視鏡センター

松 本 主 之 岩手医科大学医学部内科学講座

消化器内科消化管分野

八 尾 建 史 福岡大学筑紫病院内視鏡部

山 野 泰 穂 札幌医科大学医学部

消化器内科学講座 内視鏡センター

（病理） 3 名

九 嶋 亮 治 滋賀医科大学臨床検査医学講座

二 村 聡 福岡大学医学部病理学講座

八 尾 隆 史 順天堂大学大学院医学研究科人体病理病態学

（五十音順）

イ 研究会における成果発表

＜雑誌「胃と腸」（発行元：医学書院）＞

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X線診断、内視鏡診断、病理診断等）が執筆、掲載される。

ウ 平成29年4月～平成30年3月 日程予定表

日	時	会	場
4月26日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
5月10日（水）	18:00～21:00	第56回「胃と腸」大会 大阪 リーガロイヤルホテル大阪	
6月28日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
7月28日（金）	18:00～21:00	ベルサール高田馬場	
9月20日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
11月15日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
12月20日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
1月17日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場
3月14日（水）	18:00～21:00	笹川記念会館	2階 国際会議場

② 大腸研究会 <偶数月の第4月曜に開催(10月休会)>

この研究会は、早期大腸がんの臨床画像診断と病理像について専門的な検討を行うことを目的としている。

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見に関する最先端的な検討、討論を行っている。

当協会所属医師は、この研究会への参画を通して、若手研究者の育成に貢献している。

【代表世話人】

(平成29年1月31日現在)

鶴田 修 久留米大学医学部消化器病センター

【世話人】 10名

味岡 洋一 新潟大学大学院医歯学総合研究科  
分子・診断病理学

池上 雅博 東京慈恵会医科大学病院病理部

大倉 康男 PCL JAPAN 病理・細胞診センター川越ラボ

斎藤 彰一 がん研有明病院消化器内科

高木 篤 みなと医療生活協同組合協立総合病院内科

津田 純郎 岡山済生会総合病院健診センター

富樫 一智 福島県立医科大学津医療センター

小腸・大腸・肛門科学講座

長浜 隆司 千葉徳洲会病院消化器内科 内視鏡センター

西俣 嘉人 南風病院政記念消化器病研究所

渡邊 聡明 東京大学大学院医学研究科

臓器病態外科学講座腫瘍外科学

【会計幹事】 2名

河野 弘志 聖マリア病院消化器内科

中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

(五十音順)

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 日程予定表

日	時	会 場
4 月 24 日 (月)	18:00～21:00	東京慈恵会医科大学 高木 2 号館地下 1 階 南講堂
6 月 26 日 (月)	18:00～21:00	東京慈恵会医科大学 高木 2 号館地下 1 階 南講堂
8 月 28 日 (月)	18:00～20:00	東京慈恵会医科大学 高木 2 号館地下 1 階 南講堂
12 月 11 日 (月)	18:00～20:00	東京慈恵会医科大学 大学 1 号館 6 階 講堂
2 月 26 日 (月)	18:00～21:00	東京慈恵会医科大学 大学 1 号館 6 階 講堂

### 3 研修指導事業

都内及び国内各地の専門医、医療技術者、さらには海外の専門医に対し、早期消化器がんの診断技術取得を目的とした研修会、セミナーなどを実施する。

#### (1) 日中早期胃大腸癌学術検討会

この検討会は、中国における消化器がん早期発見の推進を目的として、上海交通大学及び中華医学会内視鏡学会との共催で開催している。

本検討会は、中国本土からおおよそ 600 名の消化器専門医が参加し、世界に誇る日本の消化器がんの診断・治療の現況を紹介するとともに、ライブ・デモンストレーションを実施する。

#### (2) 国内医師に対する研修

当協会は、消化管がんの診断に関して X 線・内視鏡診断を含めた総合的な研修が行える数少ない施設である。消化器内科・外科の医師を対象として、内視鏡診断に関する専門研修医を受け入れ、専門研修を実施する。

なお、当協会は、日本消化器内視鏡学会及び日本消化器がん検診学会から内視鏡・X 線に関する指導施設として認定されている。

#### (3) 放射線技師に対する研修

当協会は、医療機関で胃 X 線撮影を担当する診療放射線技師を対象とする実技研修が行える施設であり、研修を希望する診療放射線技師を積極的に受け入れる。

研修においては、日本消化器がん検診学会認定の胃がん検診の専門技師が指導にあたる。

#### (4) 平成消化器懇話会の開催

急速に進歩している消化管疾患の診断及び治療に関する最新知識を習得する場として、地域の医師等を対象に「平成消化器懇話会」を開催する。

平成 29 年度は以下のとおりであり、7 月 6 日及び平成 30 年 1 月 19 日に開催する予定である。

##### ・ 7 月 6 日開催

「ピロリ除菌時代の胃癌検診」

東京医科大学病院消化器内視鏡学分野内視鏡センター主任教授

河合 隆 先生

##### ・ 1 月 19 日開催

「炎症性腸疾患の内視鏡診断」

慶応義塾大学予防医療センター教授

岩男 泰 先生

## 4 普及啓発事業

消化管がんに対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性をはじめとして、がん対策の基礎知識及び生活習慣病も含む幅広い健康管理法についての啓発活動を展開している。

具体的には、周辺医師会・病院等と連携のうえ講演会等を開催し、上部・下部内視鏡、超音波、診断X線（胃透視）の撮影技術及び読影・診断技術の向上に努めている。また、企業の健康管理担当者等を対象にセミナーを開催するなど、企業従業員の健康管理に必要な情報を提供し、従業員健康管理を支援している。

さらに、検診受診者等を対象に検診に関する身近なテーマを取り上げ解説した「ニュースレター」を発行し、健康増進の普及啓発に努めている。

### (1) 保健指導者セミナー（「健康開発りぼーと」の発行）

保健指導者セミナーは、疾病及び健康診断の有用性を啓発することを目的としている。

対象は、健康保険組合及び各企業の健康管理室等の健康管理担当者、産業医、日本橋医師会並びに早胃検倶楽部会員等であり、年1回（11月）開催する。

セミナー終了後、保健指導者セミナーの講演記録を『健康開発りぼーと』として小冊子にまとめ、協会の検診受診者等に配布する。

平成29年度は以下のとおりであり、11月17日に開催する予定である。

- ・「膵臓がんを早期発見するために」

杏林大学外科教授

杉山 政則 先生

### (2) ニュースレターの発行

協会クリニックの患者や検診受診者を対象として、がんや生活習慣病、検査方法等をわかりやすく解説した「ニュースレター」を隔月で発行する。

今年度は、次のテーマを予定している。

5月発行	甲状腺（疾患）
7月発行	CT大腸検査
9月発行	逆流性食道炎
11月発行	リウマチ
1月発行	MMG
3月発行	糖尿病～怖い合併症について～

## 5 検診・診療事業

### (1) 検診事業

企業からの委託による従業員を対象とした健康診断をはじめとして、中央区住民を対象とした区民検診、個人の方を対象とした健康診断等、さまざまな健康診断を行っている。

健康診断としては、人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の各種検診を取り扱っている。今年度は、約 13,000 人の検診を予定している。

また、企業の従業員検診については、委託企業へ出向きそこで検診するという巡回検診にも対応している。今年度は、約 7,000 人の検診を予定している。

### (2) 診療事業

附属茅場町クリニックは、地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当クリニックの受診を希望する方を対象に外来診療を行っている。

診療日：月曜日～土曜日（土曜日は、第 2 週及び第 4 週の午前中のみ）

診療時間：午前 9 時～午後 4 時（午前 11 時 30 分～午後 1 時を除く。）

診療科目：内科、消化器内科

呼吸器専門外来、肝臓専門外来、ピロリ外来

来院見込数（年間延べ人数）： 10,000 人

### (3) 特定保健指導

特定健診においてメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に対して、特定保健指導を行っている。

指導日：月曜日～金曜日

指導時間：午後 1 時～午後 4 時

指導内容：医師による面談、保健師による指導、行動目標及び行動計画の作成等

## 6 法人運営

### (1) 評議員会・理事会の開催予定

平成 29 年	5 月下旬	理事会（決算）
平成 29 年	6 月中旬	評議員会（決算）
平成 29 年	11 月上旬	理事会（業務執行状況報告）
平成 30 年	3 月中旬	理事会（予算）

### (2) 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大、がん検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究事業の成果の向上及び検診事業の充実を図るため、画像保管システムや内視鏡装置の更新など研究用機器を整備する。

### (3) 資金計画

機器装置、設備等の更新をはじめ事業に必要な資金は、自己資金のほか寄附金及び賛助会費等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努める。

### (4) 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

当協会の運営に関する法令、規程等を職員に周知するとともに、その遵守を徹底し、職員のコンプライアンス意識を高める。

## Ⅱ 平成 29 年度収支予算書

---

# 平成29年度 収支予算書

(正味財産増減予算書)

平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで

(単位:千円)

	公益目的事業 会計	法人 会計	内部取引 控除	平成29年度予算 (A)	平成28年度予算 (B)	増 減 (A-B)
＜一般正味財産増減の部＞						
I 経常増減の部						
1. 経常収益						
① 基本財産運用益						
基本財産受取利息	1,064	0	0	1,064	1,305	△ 241
② 特定資産運用益						
特定資産受取利息	244	0	0	244	244	0
特定資産受取配当金	193	0	0	193	167	26
③ 受取会費						
賛助会員受取会費	3,593	0	0	3,593	4,173	△ 580
④ 事業収益						
診断診療収益	561,740	42,112	0	603,852	624,364	△ 20,512
⑤ 受取寄附金						
一般受取寄附金	16,270	0	0	16,270	13,910	2,360
⑥ 雑収益						
受取利息	20	0	0	20	20	0
雑収益	2,700	0	0	2,700	1,313	1,387
経常収益計	585,824	42,112	0	627,936	645,496	△ 17,560
2. 経常費用						
① 事業費						
役員報酬	15,120	0	0	15,120	11,040	4,080
給料手当等	259,312	0	0	259,312	272,828	△ 13,516
役員退職慰労引当金繰入額	1,260	0	0	1,260	920	340
退職給付費用	5,675	0	0	5,675	5,970	△ 295
福利厚生費	28,603	0	0	28,603	30,527	△ 1,924
旅費交通費	1,568	0	0	1,568	1,768	△ 200
通信運搬費	5,126	0	0	5,126	5,153	△ 27
医療材料費	36,285	0	0	36,285	38,629	△ 2,344
消耗品費	14,622	0	0	14,622	14,793	△ 171
修繕費	20,108	0	0	20,108	20,590	△ 482
図書費	922	0	0	922	1,022	△ 100
印刷製本費	3,390	0	0	3,390	3,414	△ 24
光熱水料費	3,961	0	0	3,961	4,288	△ 327
賃借料	83,283	0	0	83,283	83,233	50
委託費	88,811	0	0	88,811	89,277	△ 466
リース費	386	0	0	386	126	260
会議費	669	0	0	669	169	500
保険料	470	0	0	470	410	60
支払負担金	627	0	0	627	807	△ 180
支払手数料	1,630	0	0	1,630	1,630	0
交際費	100	0	0	100	100	0
広告費	352	0	0	352	452	△ 100
減価償却費	45,344	0	0	45,344	47,176	△ 1,832
租税公課	5,785	0	0	5,785	6,213	△ 428
雑費	992	0	0	992	1,492	△ 500

	公益目的事業 会計	法人 会計	内部取引 控除	平成29年度予算 (A)	平成28年度予算 (B)	増 減 (A-B)
② 管 理 費						
役 員 報 酬	0	8,516	0	8,516	24,178	△ 15,662
給 料 手 当 等	0	19,810	0	19,810	18,922	888
役員退職慰労引当金繰入額	0	690	0	690	1,980	△ 1,290
退 職 給 付 費 用	0	375	0	375	193	182
福 利 厚 生 費	0	4,785	0	4,785	5,186	△ 401
旅 費 交 通 費	0	60	0	60	360	△ 300
通 信 運 搬 費	0	100	0	100	100	0
消 耗 品 費	0	100	0	100	100	0
修 繕 費	0	210	0	210	210	0
図 書 費	0	30	0	30	50	△ 20
印 刷 製 本 費	0	70	0	70	170	△ 100
光 熱 水 料 費	0	157	0	157	190	△ 33
賃 借 料	0	1,995	0	1,995	1,995	0
委 託 費	0	149	0	149	149	0
会 議 費	0	400	0	400	500	△ 100
保 険 料	0	0	0	0	1,329	△ 1,329
支 払 負 担 金	0	102	0	102	102	0
支 払 寄 附 金	0	50	0	50	50	0
支 払 手 数 料	0	10	0	10	10	0
交 際 費	0	2,100	0	2,100	100	2,000
減 価 償 却 費	0	643	0	643	692	△ 49
顧 問 料	0	1,710	0	1,710	1,710	0
雑 費	0	50	0	50	110	△ 60
経常費用計	624,401	42,112	0	666,513	700,413	△ 33,900
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 38,577	0	0	△ 38,577	△ 54,917	16,340
3. 基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0
4. 特定財産評価損益等	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 38,577	0	0	△ 38,577	△ 54,917	16,340
II 経常外増減の部						
5. 経常外収益	0	0	0	0	0	0
6. 経常外費用	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 38,577	0	0	△ 38,577	△ 54,917	16,340
一般正味財産期首残高	433,306	0	0	433,306	488,223	△ 54,917
一般正味財産期末残高	394,729	0	0	394,729	433,306	△ 38,577
< 指定正味財産増減の部 >						
7. 一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0
正 味 財 産 期 末 残 高	394,729	0	0	394,729	433,306	△ 38,577

※平成28年度予算のうち一般正味財産期首残高は、平成27年度正味財産増減計算書の一般正味財産期末残高488,223千円を計上している。